

令和6年度 障害児施設職員職層研修

支援の実践 ～ことばとコミュニケーション～

公益社団法人 発達協会 王子クリニック リハビリテーション室
言語聴覚士 公認心理師
鈴木 さやか

療育・指導の中で戸惑うことは沢山・・・

騒いで大暴れ...
どうやったらおさまるの！？

急に泣きだした...なんで！？

ふざけてばかり...
どうやったらやめてくれるの！？

言うことを聞いてくれない
...なんで！？



今回お話ししたいこと

①子どもと関わるときに大人が心掛けたいこと

②発達段階に応じた子どもの見方
事例を通して

③最後に

大人の基本姿勢 SOUL ～INREALアプローチより～

参考：日本INREAL研究会ホームページ

S

Silence

(静かに見守ること)

子どもが場面に慣れ、自分から行動が始められるまで静かに見守る。

O

Observation

(良く観察すること)

何を考え、何をしているのかよく観察する。コミュニケーション能力・情緒・社会性・認知・運動などについての能力や状態を観察する。

U

Understanding

(深く理解すること)

観察し、感じたことから、子どものコミュニケーションの問題について理解し、何が援助できるのか考える。

L

Listening

(耳を傾けること)

子どものことばやそれ以外のサインに十分、耳を傾ける。

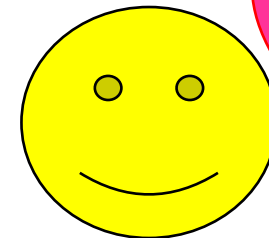
子どもと関わるときの基本的な姿勢

- SOUL
- 子どもに接するときの表情
- 子どもへの視線の向け方
- 距離感
- 声の大きさ、トーン

こうしたノンバーバルな部分を子どもはよく見ている！！！！

大人の「子どものありのままを受け入れている感じ」

・・・子どもも大人を受け入れてくれる



子どもと関わる時に大人が心掛けたいこと

なんでことばかけをする・・・？

ことばを教える

コミュニケーションとして

その子を「育てていく」から→どんな大人になってほしい？

社会の中で自立した大人に！

ことばかけの工夫 大人との関わりの中で子どもは学んでいく

子どもの成長に合わせてことばかけもレベルアップ！

理解しやすい話し方の工夫 障害特性やその子の理解力も考慮

いくら大人が教えても子どもが理解できない伝え方では伝わらない

基本的なことばかけの工夫

- ワーキングメモリーを考慮し、短く！
- 一文一意
- 二重否定にならないように！

子どもの成長に合わせて
レベルアップ！

- 注目しやすい環境
- ことばかけのタイミング
- 絵や写真など「見て」分かりやすく！
- 感情的・威圧的にならないように！

どの子にも共通して
心掛けたいこと

ことばの力

物事を知り、
考えるときに使う

人との
コミュニケーションツール

運動の自己コントロール

問題行動をとらえる一つの見方として

問題行動を起こす子ども

考えられる理由は・・・感情のコントロールが難しい

行動のコントロールが難しい

相手や状況に合わせて

どう行動するか、判断する力が未熟

⇒

社会性の発達が幼い

社会性の発達段階

発達年齢	発達段階	
0～1歳代	自我・自己主張の芽生えの時期	事例1・事例2
2歳前後	良い・悪いがわかり始める時期	事例3
3歳ごろ	『おにいさん』『おねえさん』意識を持つ時期	事例4・事例5
4歳～5歳	競争心が高まり、上達意欲を持つ時期	事例6
6歳～	道徳的な見方をし、善悪の判断基準を学ぶ時期	事例7

こんな子いませんか・・・？ 事例1

自分の好きな遊びをし続ける・・・

大人が声を掛けても反応がない・・・

大人が遊びに誘っても全く見ない・・・

他者への気づきの時期(0歳～)

- 例1 Aちゃん(2歳児)

指示に応じない

興味のないものには全く反応しない

大人が関わっても嫌がりもしない

自分の好きなことをやり続ける



相手に気付く・・・大人の指示に合わせる経験

自分の身に起きていることに気付く

・・・生活の中で『動く』経験をさせていく

大人の指示に合わせる経験

生活の中には様々なルールがある
まずは対大人とのルールに沿う練習が必要
大人が指示→子どもが応じて行動→ほめる

応じる構えを作る

このコミュニケーションが大事！

手を添える等介助して体験させる

指示・介助してやらせきる

ほめられていることに
気付かせる！

効果的な指示の出し方

少し前に予告

子どもに近づいて正面から

「～していい？」

決定権が子どもに
になってしまう

子どもの注意を大人にひきつけてから

「～します」「～しよう」と宣言

少し抑えた低めの声で

指示したことは必ずさせる

やり始めたらほめる 最後まで見守る

「相手」に気付く

箱からボールを取り出したいくて手を突っ込むが取り出せない



大人が取り出し方を見せるも、また同じように手を突っ込んでいる
相手がしていることを見ていない 相手に要求を伝えない

指導開始時に唯一、興味を示した教材 ビーズ

ケースを自分で開けられない



大人の肩を叩いて『開けて』とお願いすることを根気強く教えた



自分でうまくできないと大人の肩を叩いて伝えるようになった！
「相手」を意識するようになった！

根気強く！

生活の中で「動く」経験

子どもたちは生活の中で、さまざまな手立てを身に付けて自立していく
・・・「確かな関わり」が必要

関わりの中でのポイント 「ちよつとずつ」

スモールステップで！

「快適に」

「うまくいきやすい」

同じ場面で同じことばを掛けられることで行動できる

手続き記憶（同じような経験の繰り返しによって獲得される記憶）

同じ手順 同じ声掛け

こんな子いませんか・・・？事例2

お友達の近くにはいるが、おもちゃを取られそうになると叩く・・・

お友達の物は勝手に使ってしまう・・・

反応が薄く、やりたいことがよくわからない・・・

自分からは主張しない・・・

自我・自己主張の芽生えの時期 1歳～

- 例2 Bくん(4歳児)

ほしいものがあると奪い取ろうとする

怒る、叩く、かみつく・・・など

ひとのものを勝手に使う



自分の物と他者の物の区別

自分の物と他者の物との区別をつける

「自分の」という意識が高まる ⇒ 他者の存在を意識するようになる

「自分の」おもちゃをとられる！
相手を攻撃してしまう

ちょうだい — どうぞ

自分のものは自分で持つ

「どうぞ」「いいよ」と言われて
から物に触れるというルール

自他の区別の発達が自
分と相手の考えは違うと
いうことの理解につながる

こんな子いませんか・・・？事例3

自分の思ったルールと違うと騒ぎ始める・・・

騒ぎ始めると自傷・・・他害・・・

かんしゃくを起すとなかなかおさまらない・・・

良い・悪いがわかり始める時期 2歳～

- 例3 Cくん(小学校低学年～高校生)

ことばは出ているが、やりとりできる内容は決まったものが中心

少しでも自分の思い通りにならないと癩癩、壁を叩く、大きな声を出す



感情のコントロール力をつける

決定権を理解すること

「ダメ」が分かるように

感情のコントロール力をつける

「10まで ピタッと 静かに 座る」練習で
気持ちと身体のコントロール力を身に付ける

関わる大人も感情的にならずに！ 淡々と！

決定権を理解すること

決定権を誤解している子→被害的に受け取りやすい
反抗的・挑戦的に見られやすい
幼児期から長い期間をかけて理解していくもの

誰が決めるのかをはっきり示す

「先生が決めます」

「ダメ」が分かる

子どもを危険から守るためには、大人の「ダメ」を理解し、動きを止められるようにする必要がある

「ダメ」が分からないまましていると・・・自分勝手な行動が激しくなる

子どもに抑制力をつける

動きを止めたいときはハッキリと

からだを止める

適切な行動とセットで
教える
「～がマル」

「よいこと」ができたらずぐに同じことばや
身振りを使ってほめる

できたね！

ピンポーン！

マル！

類推する力

ことばで表されないことを想像で考えること

「走っちゃダメ！」

「歩こうね」

「叩くのはバツ！」

「手はおひざだね」



望ましい行動を伝える

こんな子いませんか・・・？事例4・5

場所によってできるはずのことをやらない・・・

「マル」になりたい気持ちはあるが「バツ」で騒ぐ・・・

失敗に弱く、再び取り組むことを拒む・・・

場所や人によって態度が変わる・・・

おにいさん意識を持つ時期（3歳ごろ～）

- 例4 Dくん（小学校高学年）
決定権やルールの理解はできている
しかし失敗に弱い
↓
大人のアドバイスが聞けるように
自分の気持ちの言語化
二分法（マルかバツか）からの拡がり

大人のアドバイスが聞けるように

相手の話を聞く＝相手に注目できる、口を静かに、待つ
気持ちのコントロール

「10までおくちチャック」

どうしたらうまくいくのかを明確化する

アドバイスを受け入れ、
取り組めている過程も評価

なんでマル？・・・理由を答える「～できたからマル」
「～できるのはお兄さん」

自分の気持ちの言語化

情緒面の発達 喜怒哀楽の感情 1歳前後から



感情が分化 「うれしい」「たのしい」「さみしい」 3歳前後から
いやなの？怒ってる？悲しいの？・・・相手への気持ちの問い合わせ

3歳半ばから

感情を表現する言葉を学ぶには、他者からの気持ちの代弁が必要
多くの人と関わりながら、自分の感情を客観的に把握する

気持ちを代弁する

バツは「イヤ！」・・・騒ぐ
気持ちの言語化

残念だったね

くやしいね

子どもに自分の感情について気づかせ、理解を促し、
併せてコントロール力を高める

マルだったかどうか、結果のみを評価するのではなく、
まずは行動に移せたこと、取り組んでいることを評価

次の「上達意欲を持つ時期」に向けて
マルーバツの二分法→「すこしずつできる」へ

経過を評価する
ことも大切

気持ちと行動のコントロールが苦手

気持ちと行動が乱れやすい要因を把握しておくことは必要

睡眠リズム・体調・便秘・生理周期・環境の変化（家庭、新学期、行事など）・・・

・例5 Eくん（幼児期～今は中学生）

場面に合わせて、適切な行動をとることが難しい

衝動性も高いタイプ

気持ちが昂ぶりやすい

毎回「いい子にする！」と来室



曖昧な表現は避ける

見通しを持たせる

曖昧な表現は避ける

「たぶん」「そうなるかもしれない」
などの意味が分かると曖昧な
表現を受け止められるように
→ **ものごとを受け止めやすくなる**

抽象語：目の前には表わせない言葉

「食べ物」などカテゴリーを表す言葉、気持ちを表す言葉、「しっかり」「きちんと」など様子を表す言葉、等

「いい子にしてね」

曖昧な表現なので、人や状況によっても評価が変わりやすい
本人と接する大人の間でもとらえ方が異なりやすい

「いい子」とは何なのかを明確化する 「先生の話聞く」
「お口チャック」

具体的に伝える

見通しを持たせる

「～したら○○」

スケジュールを示す

大人の決めたスケジュールに合わせることで自体が
他者に合わせる力、気持ちや行動のコントロール力を育てる

慣れて見通しが持てるようになると、先走って行動する子も・・・
了承を得ることを教える

「～してもいいですか？」

こんな子いませんか・・・？

みんなと一緒に取り組みたい気持ちはある
上手になりたい、という思いも強い
勝ち負けにこだわってしまう・・・
負けそうになると相手を非難する・・・
負けそうと感じると参加しない・・・

競争心が高まり、上達意欲を持つ時期 (4～5歳)

・例6 Fくん(小5)

ルールを示されると、ルールに応じて自分の気持ちや
行動をコントロールできるようになってきた

しかし勝敗がつくような活動は拒否
参加してもズルをして勝とうとする



上手になりたい気持ちを育てる
他の子を応援

上手になりたい気持ちを育てる

苦手なことにも挑戦する

体の使い方が不器用な子も多く、思いがけない失敗をしがち・・・

スモールステップで取り組む

目標を直前に伝える

視覚的に上達が『見える』ように

子ども自身が自分の良い面に注目できるような声掛け

子どもが取り組んでいること、頑張っていることを即フィードバック

目標に向けて再度チャレンジ

「仕方ない」

「次、がんばろう」

他の子を応援

他児を応援することで自分が応援されていることに気付く
勝ち負けよりも「ルールを守ること」

「気持ちをコントロールして取り組めること」

「負けた子への思いやり」

を大人も評価することを忘れずに

こんな子いませんか・・・？

事前に約束したことは守れるようになっている
しかし、ルールを守っていない子に対し非難する・・・
ルールなどに過剰にこだわる・・・
臨機応変に行動することは難しい・・・

道徳的な見方をし、善悪の判断基準を 学ぶ時期（6歳～）

- 例7 Gくん（小2）

ルールを守る大切さは理解

ルールを守らない他児に対してイライラ・・・

時には非難してしまうことも



目標や約束事を決めて行動を振り返る

目標や約束事を決めて行動を振り返る

自分に起きたことを記憶し振り返る力がつく



反省して自己修正もできるようになる

約束を守れた時こそ振り返る時間をとること！

SSTも効果的になる時期

こんな子も実はいませんか・・・？

困った行動は特にはないのでずっと大人がついている必要はない

自分からの主張は少ない

周りのお友達に合わせることも上手

でも・・・家では泣いて怒ることが多いと保護者から聞いてビックリ！

大人しい手のかからないタイプの子

- 例8 Fくん(小学生～中3)

目立った行動はとらないので『理解している』と思われがち

もともと不安感や緊張感が強い

我慢しすぎている

問題行動を起こさないから「わかっている」「適応できている」訳ではない

↓

「イヤ」「わからない」を伝えられるように

「大丈夫だった」を増やす

「イヤ」「わからない」を伝えられるように

「イヤ」「わからない」が言えない

わからないことがわからない

わからないけれど人に聞かない 助けを求めない

言っではいけないと思いこんでいる

子どもの様子をよく観察

理解力を把握

大人との信頼関係を築く

「大丈夫だった」を増やす

一見、困っていることに周囲が気付かない場合

「できている」と思われているため、本人が頑張っている

適切なタイミングで評価されにくい→自信につながりにくい

家に帰ってから感情を爆発させることも

本人との信頼関係を築きながら、困ったことがあっても大人に伝えたら「大丈夫だった」を増やしていく

「大丈夫だった」が増えたら不安感・緊張感の軽減、次への挑戦にもつながる

さいごに

- 伝わりにくいとき
- 理解＝表出とは限らない
- 子どもの年齢との関わり方
- 今回のお話しのまとめ

伝わりにくいとき

- 子どもに正しく伝わっていない時は子どもも混乱しやすい
 - 具体的に伝える
 - わかりやすい文で話す 2～3語文『短めに』
 - 肯定的な表現
 - ことばだけで伝わりにくい時には文字・実際の動作を示す

理解＝表出とは限らない

お話ししないからといって理解していないわけではない
お話ししているからと言って理解しているわけではない



行動面に注目

子どもの年齢との関わり方

精神年齢と生活年齢

精神年齢：その人の知的な能力を示すもの

しかし、その人の知的な能力をすべて表しているわけではない

生活年齢：実際の年齢

社会で求められる年齢相応の
ふるまいを教えることは
子どもたちに関わる大人の役目

年齢相応とは？

- ・・・支援者としてある程度の発達段階を理解しておくことは必要
- その子に合った支援を考える上でも重要
- 知的に遅れのある場合でも年齢相応の対応は大事

何度も言い続けることが必要・・・？

(受講者アンケートより)

理解を促すために、根気強く、丁寧に、伝えることは必要。

しかし、いつまでも「何度も言い続ける」ことが必要・・・？

子どもの**行動面**に注目

まずは自立を目指して見守りたい

SOUL

その子の理解力、社会性の発達に応じて

声掛けのバージョンアップを！

思春期の子への声掛け

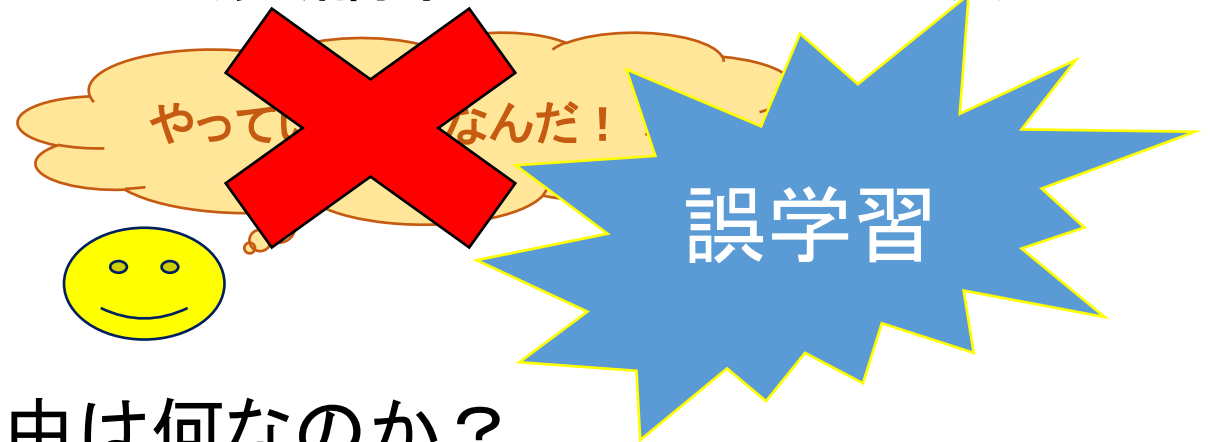
学んで欲しい
ことは・・・？

自傷や他害をしてしまう・・・

暴れ続けたら本人のしたいようにさせるしかない・・・？

(受講者アンケートより)

止めないままでしたら・・・



自傷行為、他害行為をしてしまう理由は何なのか？

子どもをよく観察し、理由を探る→対応策へ

今回のお話しのまとめ

★子どもと関わるときの基本的な姿勢

★ことばかけの工夫と理解しやすい話し方の工夫を身に付け、子どもと関わりましょう！

★子どもの問題行動の捉え方

⇒今回は社会性の発達段階に沿って、その時期に力をつけたいこと、力をつけていくためにどんな関わりをしたらよいか、どんな声掛けをしたらよいかを事例を交えながらお話ししました。

★ことばの力で自分の動きをコントロールする

大人が関わりながら力をつけていく⇒自分自身でコントロールできるように

人から学ぶ力を身に付け、
社会の中で生きていけるように！

ご静聴ありがとうございました

- ・ 参考文献

発達につまずきがある子どもの子そだて はじめての関わり方

子どもと変える 子どもが変わる 関わりことば 場面別指導のポイント

ことばの力を伸ばす考え方・教え方 話す前から一・二語文まで

明石書店 湯汲英史 編著

イラストでよくわかる 知的障害・発達障害のある子どもへのコミュニケーション支援

合理的配慮にもとづいたことばとこころのサポートブック 診断と治療社 編集 湯汲英史

知的障害 発達障害のある人への合理的配慮 自立のためのコミュニケーション支援

かもがわ出版 編著 坂爪一幸 湯汲英史

社会性の発達から見た「行動の問題」とは 小倉尚子 2015年発達協会実践セミナー資料より

気持ちのコントロールが苦手な子への切りかえことば26

子育てが楽になることばかけ関わりことば26 すずき出版 湯汲英史/著

0歳～6歳子どもの社会性の発達と保育の本

0歳～6歳子どもの感情コントロールと保育の本 Gakken 湯汲英史 著

DVD 発達障害のある子どもと話すポイント～コミュニケーション力を高めるために～第1巻・第2巻

合理的配慮～知的障害・発達障害のある人への自立のためのコミュニケーション支援

～第2巻合理的配慮の実際～コミュニケーション支援を中心として～ 監修 湯汲英史